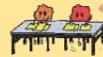


# 教職員養成・育成だより 第68号

令和5年2月27日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課



## 12～2月の教職員育成課の教職員研修等及び事業情報

12月～2月も、研修等が集合、オンライン、ハイブリッド等様々な方法で行われました。教職員養成・育成だよりで、ぜひ全教職員に受講者の学びを共有するとともに、人材育成の推進等にご活用ください。

### 大学の短期インターンシップ※1を実施しました

インターンシップは、大学の履修科目として、市立学校の授業等の見学や体験を通して、学校現場の様子を知り、教職に向けた明確なキャリア意識の形成を行うための活動です。学生が本市学校の様子を知る機会であることはもちろんのこと、指導する教員にとっても「後進の指導を通して自身が成長する機会」となります。当課では、短期インターンシップでの授業公開を「初任3年目研修の選択研修の一部」に位置付けています。今回10校の中学校※2に御協力いただきました。実施校からは、「学校側も多くの学びを得ることができた。」との声をいただいております。

3月には来年度の長期インターンシップ※1への御協力の募集をいたします。また、来年度の第1回初任3年目研修にて短期インターンシップにおける授業者を募集しますので、併せて御協力のほどお願いいたします。

- ※1 短期…1日程度の活動で授業見学が中心 ※長期…半年～1年間週1回程度活動
- ※2 菅田中、仲尾台中、共進中、平楽中、港南中、根岸中、六浦中、新田中、緑が丘中、中川西中



授業見学の様子

### 横浜型初任者育成研修「初任・2年目・3年目研修」～1年間の研修を終えました～

それぞれの研修の最終回は、これまでの経験をもとに振り返り、1年間の研修の成果と課題を明らかにしたり、来年度に向けて目標とする姿をグループで協議したりしました。協議した内容は、Can(できるようになったこと)・Must(求められること)・Will(なりたい姿)としてまとめ、GIGA 端末を活用して JamBoard で視覚化しました。さらに、具体的な来年度の理想の姿を思い描き、目標を宣言し合いました。



- 同じような悩みをもつ人がいて、どう解決していくか話し合うことで安心し、頑張っていこうという気持ちになった。
- 来年度、自分が目指す姿を考える上で、児童がどのように過ごせるとよいかという視点でも考えることが大切であると学んだ。
- グループで今年できたこと、できなかったことを書き出した際に気付いたことがある。それは、最後に行き着くのが、「子どもたちのためになっているのか」というところであり、私たちは子ども中心で考えるようにこの一年でなっていたんだということだ。年間を通して大切なことに気付くことができた研修であった。

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

### 2年目校長・管理職選択研修～持続可能な働き方を目指して～

12月9日(金)に「第3回 2年目校長・管理職選択研修」を実施しました。3回シリーズの最後となる今回の研修では、各校の校長先生が、「データや対話を通じた働き方改革」をテーマに自校で実践したことを、ポスターセッション形式で発表しました。働き方改革や組織マネジメント等についての活発な議論が交わされ、有意義な研修となりました。



#### 【受講者の振り返り】

○この研修がきっかけとなり、働き方プロジェクトチームを結成することができました。今後も取組を継続させて、今年のように自校のアンケートを実施し、学校の良さや改善点を全職員で共有して、少しずつでも働き方改革に繋がることを積み重ねて、成果をあげていきたいと思いました。

### 前期・後期中堅教員研修～今年度最後の共通研修を行いました～

一年間にわたって実施してきた前期・後期中堅教員の最後の共通研修が1月11日～13日(後期)、19日～20日(前期)に行われました。一年間の研修を振り返り、前期中堅教員研修では、これから発揮していきたいリーダーシップについて、後期中堅教員研修では、今後のキャリアデザインについて考えました。

#### 【受講者の振り返り】

○様々なリーダーシップのあり方を学んだことで、自分にも何かできることがありそうだと感じた。組織の先陣を切ることは難しくとも、集団をつなげたり、支えたりしていくことを大切にしていきたい。(前期受講者)  
○学校全体で子どもたちにとってよりよい指導や支援のあり方を目指せるよう、様々な人を巻き込みながら協働して学校運営を行なっていける、推進力のある教員になりたい。(後期受講者)

### 第7回 ICT コーディネーター養成研修

1月19日、27日に「第7回 ICT コーディネーター養成研修」を実施しました。当日は「実践報告会」として、今年度の取組について、受講者同士で共有を行いました。前半は、二人の代表報告者から取組について発表してもらいました。小学校の報告者は「校内をさらに巻き込むためには…」、「増えていくやるべきことを少しでもまとめていくには…」という発想から、人権週間の取組を生かして、人権推進委員会と、道徳部との連携を図り、情報モラル・コミュニケーションに関する指導を行った事例を紹介してくれました。また、中学校の報告者は、他の先生から授業づくりに相談があった際に「自分で支援した方が早いかも…」と思いながらも、特定の教職員に依存しない、持続可能な ICT 活用体制を構築することを目指し、外部 (ICT インストラクター) と連携して支援に当たった事例を報告してくれました。その後、小グループに分かれての共有を行いました。受講者の振り返りにもあるように、互いにヒントをたくさん見つけることができたようです。

#### 【受講者の振り返り】

○ICT を学校に取り入れるための難しさばかりが目立っていたが、今回、他校の先生方と意見交換ができたことで、先生方にアプローチをする新しい入口を見つけることができた気がした。  
○他校で行っていた ICT 支援員を巻き込んで授業を進めていくことを次年度は行っていこうと思う。最終的に児童自ら進んで ICT を活用し、情報を選択し、発信できるようになるために ICT コーディネーターとして考えていかなければいけないと実感した。

講師の中川先生からは、上記の代表報告にも触れながら、他者に働きかけ、巻き込んでいく重要性についてご指導いただきました。来年度も本研修は継続します。今年度の修了者に ICT 関連業務が集中することなく、さらに組織としての取組を充実させるためにも、来年度も引き続き、受講者の推薦をお願いします。一年間、研修へのご理解とご協力、ありがとうございました。

# 教職員養成・育成だより 第67号



令和4年12月16日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 11月の教職員育成課の教職員研修等及び事業情報

11月も、研修等が集合、オンライン、ハイブリッド等様々な方法で行われました。教職員養成・育成だよりで、ぜひ全教職員に受講者の学びを共有するとともに、人材育成の推進等にご活用ください。

### 令和5年度の小中学校の教育実習について

令和5年度に「一括方式」で受け入れていただく予定の学校には、学生が学校に面接の依頼連絡を12/9(金)までに行うことになっていますが、期限を過ぎても連絡がない場合には教職員育成課までご連絡ください。

教育実習の面接及び受入可否の決定は1月末日までをお願いします。面接が終了したら、「横浜市教育実習受入承認書」を大学の返信用封筒に入れ送付してください。もし面接の結果、受入が難しい場合は、教職員育成課にご連絡ください。

一括方式の手続きはこれをもって終了となります。提出書類についての詳細は、「横浜市教育実習システムガイド」の8・9ページをご覧ください。(YCANトップページ > 各区局 > 教育委員会事務局 > 教職員育成課 > 大学連携事業 > 教育実習)

また、学校からのお問合せの中で「学生が内諾方式の申請をしてきた」といった内容が増えていきます。横浜市では4月から6月ごろに申請期間を限定していますので、期間外に学生から連絡があった場合には受入を行わないようお願いいたします。



### 11月初任者研修「特別支援学校等体験」市立特別支援学校・小中学校個別支援学級にて実施

コロナ禍の影響で2年間中止してきた本研修ですが、今年度は、特別支援学校の全面的な御協力のもと、小中学校の個別支援学級にも御協力頂き、3年ぶりに開催することができました。



#### 【初任者の振り返り】

- 今回の研修で特別支援学校の養護教諭のイメージが大きく変わった。研修前の自身の想像を遥かに超える大変さや責任感、広い専門性が必要であること、そして健康管理の重要性を学ぶことができた。特別支援学校の養護教諭ならではの働き方を学ぶことができた。児童生徒と教職員の関わり方や、教職員の声かけや行動で気をつけていることも多く学び、自身もまねて実践できることもたくさんあったので、取り入れることのできる内容は今後の職務に生かしていきたい。
- 現在小学校の個別支援級を担任しており、今回は中学校の個別支援級での研修だった。小学校と中学校での支援の違いや、授業の取り組み方など多くの視点で小、中の違いを学ぶことができた。生徒たちに積極的に声をかけながら、休み時間や学習の時間を一緒に過ごすことができた。学習の場面では、生徒の実態をよく観察しながら、支援をする場面が見守る場面なのかをよく考えながら支援できるようにしていた。
- 事前に疑問に思っていたことや体験して感じたことを職員の方に聞いたり自分の考えを伝えたりすることができた。また、職員の方の動きを見て、自分のできる限りのサポートや動きをし、お褒めの言葉をいただいた。特別支援学校での学びをそこだけのものにせず、日々の学校生活に還元できるよう振り返りを行いたい。

### 福島への教員研修派遣

11月2日(水)に、3年ぶりの現地開催となる「福島への教員研修派遣」を実施しました。新任主幹教諭研修受講者のうち希望者およそ80名が福島県富岡町を訪問し、震災関連施設の見学や富岡町教育長との対談を通して、放射線等に対する正しい理解や、震災避難者や復興に関わる人々の想いや取組への理解を深めました。



#### 【受講者の振り返り】

- 放射線に関する知識や復興の状況など、事実をじっくりと知る時間をいただけたことは、忘れかけていた記憶をよみがえらせ、子どもたちにどのように伝え、何を考えさせていくかを改めて考えるきっかけになりました。
- とみおかアーカイブミュージアムでは、富岡の歴史と、震災から復興にいたるこれまでの10年間を見ることができました。そこには、これまでも、これからも、「ふるさと」としての富岡町を大切に思っている、地元の方々の気持ちを感じることができました。

### 第2回 管理職のためのICT活用推進研修

11月30日(水)に「第2回 管理職のためのICT活用推進研修」を実施しました。講師には、文部科学省のICT活用教育アドバイザーを務められている、春日井市立高森台中学校校長の水谷年孝先生をお招きしました。第1回研修の際には、放送大学の中川教授より、今後の大きな方向性についてご講演いただきましたが、それを受け、今回の第2回研修では、学校現場で管理職として取り組んできたことを中心に、ICT活用を推進する上でのポイントについて、より具体的なお話しをいただくことができました。

#### 【受講者の振り返り】

- 「恐れずに使い倒すこと、そうすることで好循環につながっていくはず」というお話が印象に残った。「全世界の人がどんどん使っているのはまさに便利だから」ということを意識し、子どもたちの学びがより主体的なものになるよう、教育活動の中に活用を広げていきたい。
  - 失敗を隠さない、失敗してもそれが大きく広がらないようにするということは、ICT活用以外のことについても学校経営上ポイントであると感じた。誰もがができるレベルで子どもが活躍できるように意識を職員に醸成していくことを今後に生かしたい。ICTコーディネーターが横浜市ではそれにあたる。自分の原体験に寄らない授業をしていくことを日々伝えているが、さらに進めたいと思う。
  - 自らがリスキリングしていかななくてはならないこと。生徒の協働、職員の姿勢改善には、支えるべきに人間関係作りが生徒職員ともに大切で、すぐに達成するべきものではなく地道に大きな目的とミドルリーダーの育成を図りながら進めていくことが大切だと学んだ。
- ※リスキリング…今後の時代の流れを見据えて今後必要とされるスキルや知識を新たに獲得する教育

研修の様子はeラーニングで視聴することができますので、当日参加できなかった方も、Leafよりお申込みいただき、ぜひご受講ください。【研修コード：22ikict113010e】

### <お知らせ> eラーニングで気軽に学んでみましょう

研修管理システム「Leaf」内には、3000ものeラーニングコンテンツがあります。  
時間：5分ものものから、1時間以上のもので  
内容：人材育成指標の資質能力に基づいた多種多様なコンテンツ  
「教員基礎研修」をはじめ、きっとニーズに合った学びが見つかると思います。「Leaf」の検索機能を活用して、受講してみましょう。

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

# 教職員養成・育成だより 第66号



令和4年11月17日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 10月の教職員育成課の教職員研修等及び事業情報

10月も、研修等が集合、オンライン、ハイブリッド等様々な方法で行われました。教職員養成・育成だよりで、ぜひ全教職員に受講者の学びを共有するとともに、人材育成の推進等にご活用ください。

### よこはま教師塾「アイ・カレッジ」スタンダード講座

9月の開講から、3回のベーシック講座が終わりました。塾生たちは、4つの講座レポートと「目指す教師像について」のプレゼンテーション、個人面接の2次選考を経て、11月から始まる「スタンダード講座」に臨みます。スタンダード講座では、授業づくりや危機管理など、より実践的な講座内容となっていきます。また、12月からKTP(教師体験プログラム)として、学校現場での体験活動を通して学びを深める機会が始まります。



授業力講座では、受講した塾生から「子どもたちが自ら、もっと学びたいと思えるような授業を目指したいと考えた。私が今まで受けてきた授業で特に印象に残っているものは、目的意識をもって取り組んだものばかりだったことに気づき、子どもたちの好奇心や探究心を掻き立てられるような授業ができるようになりたいと思った。」などよりよい授業づくりをしていきたいという意欲の高まりが表れた振り返りが多く寄せられました。

### 2年目研修・3年目研修

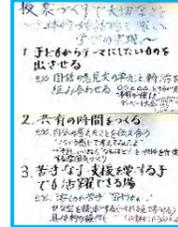
授業力向上のための研修を実施しました。2年目研修:花咲研修室/3年目研修:オンライン研修



○(2年目) 一年目と違って少し余裕ができ、授業のことを考えることができているような気がする。そのため、めざす資質能力の明確化や、主体的・対話的で深い学びの実現など、一歩先を見た考えを深めることができ、授業を展開していく中で、意識すべきところが分かった。今後もしっかり教材研究をし、子どもがどんな姿になるとよいか考えて発問・板書ができるようにしたい。



○(3年目) 同じ3年次の教員と話す機会があまりなかったので今日話すことができよかった。最後に指導主事に教えていただいたことが印象に残っている。授業1時間の中で何を身につけさせたいか、そのためにどんな仕掛けをし、どのような姿をみとる(評価する)のかを教師が常に考えて授業づくりをしていくことは本当に大切なことだと思った。慣れてくると、自分に余裕ができ、つつい色々なことを詰め込みたくなるが、子ども達自身がなにを今身につけたいのかわかるように授業を組み立てていきたい。



<2年目研修>  
ある班のまとめ

### 新任教務主任研修

10月27日(木)、「学校教育目標を実現するためのカリキュラム・マネジメント」をテーマに、第2回新任教務主任研修(オンライン)を行いました。座談会では、教育課程推進室の大井主任指導主事と、本牧中学校で教務主任を務める深澤教諭にカリキュラム・マネジメントを推進するポイントや実践等について対談をし、理解を深めました。

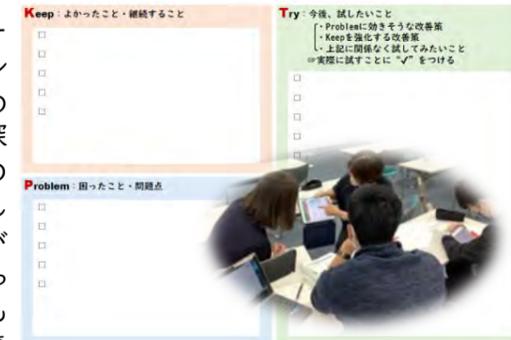


#### 【受講者の振り返り】

- ・学校教育目標を実現するために、教職員全員の合意形成をふまえ、ベクトルを揃えていくことの大切さを改めて感じました。教務主任として、これまで以上に各部署や各主任に働きかけながら全体を俯瞰し、取り組んでいきたいと思えます。
- ・自校の教育課程を改めて見直し、目標に沿って取り組んでいく意識を職員にどのように伝えていくことができるのか、を考えるきっかけになりました。同じ役割や立場の先生方と直接話をするのができたことで、思いを共有することができ、励みになりました。

### 第6回 ICTコーディネーター養成研修

10月20日、28日に「第6回 ICTコーディネーター養成研修」を実施しました。当日は、アクションプランに基づく実践を振り返り、改善していくための手法について、KPTシートを活用して、理解を深めました。協議の中では、より成果を上げるための工夫について、相互に助言し合う姿が見られました。その中で話されていた、ICTコーディネーターが効果的に機能している事例からは、「担当に任せっぱなしにせず、管理職の理解とリーダーシップのもと、学校全体の取組としている」ということが、大事な共通点として見えてきました。



#### 第2回 管理職のための ICT活用推進研修

今月末には、右の通り、管理職を対象とした研修を実施します。講師の先生からは、ICT活用を推進する上で管理職に求められる考え方や役割についてご講演いただく貴重な機会です。多くの管理職の皆様にご参加いただき、これから年度末に向けて、ICTコーディネーターの取組の支援及び各学校のICT活用の推進等にぜひご活用ください。

- 日時: 11月30日(水) 10:30~12:00
  - 方法: オンラインと集合のハイブリッド開催
  - 定員: オンライン...100名/集合...1000人
  - 対象: 管理職 ※副校長昇任候補者も受講可
  - 講師: 春日井市立高森百中学校 水谷年孝校長
  - 申込: Leaf(研修コードは次の通り)
    - ・オンライン...22ikict113010o
    - ・集合...22ikict113010s
- ※詳細は、教教育第523号(10月28日)

### <お知らせ>

今年度の研修計画等を確認してみましょう。

今年度から研修管理システム「Leaf」で、横浜市人材育成指標に基づいた設問に回答し、自身の資質・能力を可視化した「分析チャート」を参考に、研修計画を入力しました。今年度も前半が終わりました。ぜひこの時期に、「Leaf」に記入した研修計画の進捗状況等を、確認していただけたらと思います。そして計画を見直したり、後半の受講する研修を選択する際の参考にしたりしていただけたらと思います。

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

# 教職員養成・育成だより 第65号

令和4年10月11日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課



## 9月の教職員育成課の教職員研修等及び事業情報

9月も、研修等が集合、オンライン、ハイブリッド等様々な方法で行われました。教職員養成・育成だよりで、ぜひ全教職員に受講者の学びを共有するとともに、人材育成の推進等にご活用ください。

### 令和4年度 よこはま教師塾「アイ・カレッジ」スタート

よこはま教師塾「アイ・カレッジ」は、「横浜市人材育成指標」等を踏まえて教員を養成し、横浜市の教育に貢献することを目的として開催しています。今年度は小中学校の希望者を合わせて、約80名の塾生が参加しています。



9月11日(日)の第一回の講座では、塾長である木村奨教育次長からご挨拶をいただきました。今後はスタンダード講座2回、ベーシック講座7回の計10回を行い、効果測定を経て3月に卒塾します。

第一回の講座に参加した塾生からは、「生徒の知的好奇心が刺激され、授業後に達成感が得られ、生徒が授業の主役として主体的に活動でき、生徒の世界、視野が広がるような教師の独りよがりでない授業にしたい。(授業力講座の振り返りから)」「私自身が『児童生徒の立場なら』と考えた自分の考えと、意見交換したメンバーの考えが大きく異なっていたことに衝撃を受けた。児童と私自身の固定した考えや感覚で関わることへの危険性は、非常に大きいことを学んだ。(人権研修の振り返りから)」などの感想が寄せられました。

### 初任者研修「行事企画運営」横浜市内で9/27・10/4に実施

グループごとに3コースに分かれ、「安全配慮」の視点でみなとみらい地区・山下公園周辺にて研修をしました。



○あらかじめ下見をしておくことで、どのような場所、どのような場面で危険がありそうかを考えることができた。子どもたちに対し、事前に注意喚起を行うことで、事故が減ると思った。実際に、来月には自然教室の下見に行くので、これらの視点を意識して、当日の動きを確認し、本番に向けてできることを進めていきたい。

○小学校教諭とも同じ班だったので、小学校と中学校での安全指導の留意点等の違いも学び、体験することができた。



★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

教育課題研修 9月に開催した5講座について、受講者の振り返りを紹介します。

#### 9/8 JAXA 宇宙教育

「宇宙を教える」のではなく、「宇宙で教える」ということを聞いて、宇宙教育のイメージが変わりました。子どもたちの学びについて改めて考えさせられる機会となりました。

#### 9/28 メンターチームの運営

メンターチームをマネジメントする立場として、実践例を聞いた同じ経験年数の先生方のお話を伺ったりすることができたのが非常に参考になりました。

#### 9/9 特別支援教育

「待つ、見守ることで、子どもの潜在的な力を引き出す。」という話を聞き、まさしく今通級でやっていることが、この子の力になるんだと実感しました。

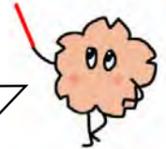
#### 9/30 非認知能力を育てる

今回の話を聞いて、月曜からできることがたくさんありワクワクしました。たくさんの学校の事例を見させていただき、「あ、頑張らなきゃな!」と思う場面がたくさんありました。

#### 9/22 すべての子どもの学力を保障する

職員みんなが同じ方向を向いて、気持ちのそろった集団であることの大切さを改めて感じました。主幹教諭として繋ぐ役ができるようになっていきたいと思います。

教育課題研修は、どなたでも受講できます。Leafからお申込みください。



### iPad アクセシビリティ研修

9月2日に「iPad アクセシビリティ研修」を実施しました。当日は、ICT推進コーディネーター 江守恒明氏を講師に招き、読み上げ音声入力、ミー文字、Clips等の機能やアプリについて、実際に端末に触れながら、どのような場面で、どのように効果的なのかを解説していただきました。

#### 【受講者の振り返りから】

- ・iPadの翻訳の翻訳精度の高さに驚いた。学校現場でも日本語ができない児童・保護者に対して積極的に使用していこうと思った。また、クリップアプリの自動テロップ機能は素晴らしいと思った。授業でも活用できると思うので、本校の教職員に教えていきたい。
- ・アクセシビリティは、子ども一人ひとりの一番学習効果の上がる環境をつくったり、迷いや不安を取り除いたりする重要なツールだと感じました。この研修をそのまま校内で行って、教職員全員が当たり前のように使えるように周知していきたいと思っています。

振り返りには「学校で広めたい」という声も多かったです。研修内容をまとめた「(1) アクセシビリティ研修資料」と、資料をiPadにダウンロードするための「(2) 研修資料のダウンロード方法」が、右のURL(Googleドライブ)内にあります。ぜひご活用ください。 ※(1)を開くと、(2)の手順③に進みます。



### <お知らせ>

#### Web会議システムでの研修受講について

Web会議システムを活用した研修では、集合研修と違い、出欠席の確認が困難な状況があります。確実に出席を確認するためにも、以下の項目についてご確認ください。

①受講中は、カメラは「ON」をお願いします。

②(ZOOMの場合)名前を「学校名 氏名」にしてください。

※状況により研修中に学校に確認の電話をすることがあります。

# 教職員養成・育成だより 第64号

令和4年9月8日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課



## 7・8月の教職員育成課の教職員研修等及び事業情報

7・8月も、研修等が集合、オンライン、ハイブリッド等様々な方法で行われました。教職員養成・育成だよりで、ぜひ全教職員に受講者の学びを共有するとともに、人材育成の推進等にご活用ください。

### 令和4年度 横浜市大学連携・協働協議会(第一部eラーニング、第二部7月1日オンライン開催)

本協議会は、54の連携大学と本市が教員の養成・育成に関する方策等を協議し、連携・協働を円滑かつ効果的に推進することを目的として行っています。第一部はeラーニングにて本市の活動を報告し、第二部の分科会はオンラインで開催しました。木村教育次長の挨拶で始まり、大学関係者、本市校長・教員、指導主事合わせて約100名が参加し、協議しました。

第二部の分科会テーマは「教師が学び続けるための管理職の役割とは」「教師の実践力の向上を目指した大学・学校間の交流とは」「特別支援教育的な視点からの児童生徒の見方を育成するには」でした。協議会の記録は、YCAN にアップされていますので、ご覧ください。

YCAN トップページ > 各区局 > 教育委員会事務局 > 教職員育成課 > 大学連携事業



### 教育実習について

調査依頼の提出に御協力いただき、ありがとうございました。令和5年度一括方式の学生の受け入れ通知については、10月下旬～11月上旬に発出予定です。

### 「初任者研修」:行事企画運営(道志・昭和・横浜)は時期を変更して、横浜で実施予定

7月末の時点での感染状況を踏まえ、8月の研修は当初の予定を変更してオンラインで実施し、「安全配慮・危機管理」の視点で校外行事の運営について考え、意見を交わしました。

- 児童生徒の安全配慮は、事前に教師が危機管理について考えておくことや児童生徒へ予め伝えておくことが重要であると思った。普段の学校生活から指導を徹底しておくことが大切だと改めて分かったので、安全についてより意識していきたいと思う。
- 様々な視点で危機管理について考えることができた。細かいところからしっかりと見つける時間となり、とても実になった。
- 今回の研修では、教員として安全管理の視点で注意すべき点を確認することができた。秋に実施する自校の校外学習の下検分を先日行ったため、下検分で確認したことを踏まえ、今後の遠足の計画を立てる際に生かしていきたい。
- 今回は道志村に行くことができず残念でしたが、オンラインという環境下で、また時間の制約がある中で、有意義な活動ができたと感じています。班活動では自分の受け持つ役割にこだわらず、活発に意見を出し合い「安全配慮」「事前学習」の報告会に向けてみんなで協力して取り組むことが出来ました。



### 「企業等研修派遣」

7月下旬から8月にかけて、新任副校長研修、新任主幹教諭研修、後期中堅教員研修の一環として、企業等研修派遣を行いました。今年度はおよそ40の企業や事業所にご協力をいただきました。研修派遣の一部について、受講者の振り返りを紹介いたします。

#### 株式会社ナリカ

(新任副校長研修)

日々の業務と経営理念がリンクすることで、組織力が高まることを実感した。副校長として、学校教育目標の具現化を常に意識し、学校経営を進めたい。



#### 東洋水産株式会社

(新任主幹教諭研修)

「食」の事業を通じて、顧客はもちろんのこと、社員一人ひとりが主役で活躍できる環境づくりを目指す取り組みは素晴らしいと感じました。



#### 日本証券業協会

(後期中堅教員研修)

人材育成の取組として学んだ、限られた時間の中で「メリハリ」ある育成プログラムを実施することなど、学んだことを学校運営の中に取り入れたい。



### 「第3～5回 ICT コーディネーター養成研修」

7月26日から8月2日にかけて、本研修を実施しました。第3回は「情報活用能力とカリキュラムマネジメント」をテーマに、各校の年間指導計画やレジュメを情報活用能力育成の視点から見つめ直しました。第4・5回は、全面オンラインでの実施となりましたが、APL 基礎インストラクターの尾崎氏による iPad のアクセシビリティ機能に関する演習や、ロイロノートの共有機能を活用したグループワーク等を通して、実際に端末に触れ、体験しながら、特別支援教育の視点から必要な配慮や、ICT 活用による学習活動の可能性について考えました。

### アクションプランの実践を！

8月31日をメ切に、受講者にはアクションプランを提出していただきました。各校、それぞれの状況に合わせた具体的な取組がまとめられていました。例えば、情報モラル一つをとっても、

「朝会のテレビ放送を通じて、日常的に情報モラルに関する意識を高める発信を行う」

「総務省のトラブル事例や動画を活用して、研修や授業を行う」…等です。

アクションプランが完成したここからが重要です。『プラン』で終わらず、実際の『アクション』へと移していけるよう、校内で協働的に取組を進めてください。

### <お知らせ>

#### 研修受講後は、必ず振り返りの記入をお忘れなくお願いします。

「Leaf」には、研修の履歴が記録される機能があります。これは、履歴を見ることで「次の目標を考える」「次の学びへの見通しをもつ」等に生かし、セルフ・マネジメントを推進するための支援ツールです。振り返りの提出がないと「受講済み」ではなく「受講予定」のままになってしまいます。ぜひ振り返りを記入し、確実に、研修履歴に残してください。

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

★協議会の記録は各連携大学等へお送りしています。Web上には公開していません。

# 教職員養成・育成だより 第63号

令和4年7月14日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課



## 6月の教職員育成課の教職員研修等及び事業情報

6月も、研修等が集合、オンライン、ハイブリッド等様々な方法で行われました。教職員養成・育成だよりで、ぜひ全教職員に受講者の学びを共有するとともに、人材育成の推進等にご活用ください。

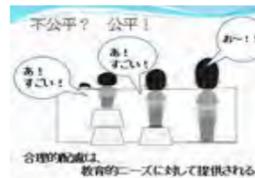
### 「教員基礎研修」～参加者のニーズに合わせて選択～

6月は2回の研修を行いました。「教育的ニーズへの対応」がテーマの回では、特別支援教育が専門の大学教員等をお招きし、専門的な助言をいただきました。参加者から大変ご好評でした。

- 特別支援を研究されている先生のお話を聞くことができ、自分の学級の改善につながるような糸口が見えた。
- 少人数グループで分かりやすかった。別の障害種の担当の方もいたので、勉強になった。
- 他校の教員の課題も自分に通ずる部分がたくさんあり、様々な支援の工夫の仕方を知ることができた。

第4回「集団作り(夏季休業後のスタートに向けて)」と第5回「主体的・対話的で深い学びの実現」の案内は7月に発出いたします。

お申込みは [VCANトップページ](#) > 各区局 > 教育委員会事務局 > 教職員育成課 > 教員基礎研修 Top



### 教育実習について

内諾方式のご協力ありがとうございました。実習の調査依頼は7月20日(金)までをお願いします。

### 「初任者研修」:危機管理研修 小学校(水泳指導・心肺蘇生) 中高特支(心肺蘇生)

横浜国際プール・花咲研修室を会場として、実技を伴う危機管理研修を行いました。

- 印象的だったのは、「実際の現場では、研修の通りにはいかない。色んなことが起こるということを前提に、本研修を学んでほしい。」という講師の赤十字の方のお言葉だった。
- 自分の学校には初任者が1人もいないので、中々友達もできず、どこか心細かったのですが、研修で、会話したり、交流したりすることができ、悩みを共有することができて、参加できて、よかったです。



### 「初任2年目研修」「初任3年目研修」

10月に第1回目の集合研修があります。それまで、選択研修の受講と校内授業研究会を実施することになっています。各学校でのサポートをよろしくお願いします。

## ミドル・管理職を対象とした研修

受講者の振り返り

### 6/3 新任校長研修(集合)

校長として2か月が終わり、さまざまな状況や様子を把握した時期に、改めて考えさせられる内容やこれから起こりうる危機と備えについて学ぶことができた。

### 6/17 新任副校長研修(集合)

初めての業務に追われて自分自身を振り返る間もない現状であったが、どのような考えや視点をもって仕事を見つめ直すべきか、落ち着いて考えることができた。

### 6/8・9・10 新任主幹教諭研修(ハイブリッド)



先輩の主幹教諭の話やワークで出会った方々との交流を通して、主幹教諭として抱く思いや悩み、葛藤にも触れ、これからの職務を、現実感を伴って捉えることができた。

### 6/23 新任教務主任研修(オンライン)

教務主任経験者のアドバイスや、互いに同じ立場であるから分かる課題や悩みなどを共有し、自校の学校運営改善に向けた具体的な取り組みを考えることができた。

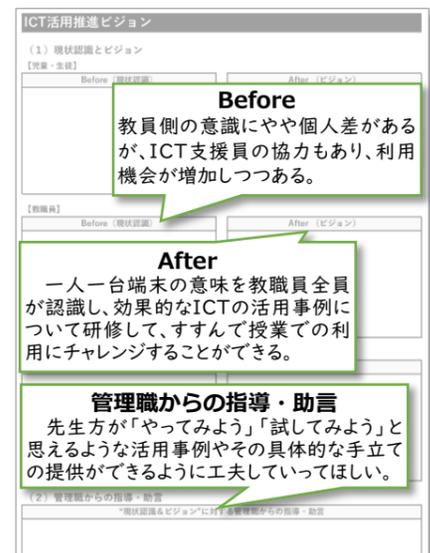
### 6/24 2年目校長研修・管理職選択研修(集合)

研修の中で「働き方改革は簡単にはできない。トライアンドエラーを続けることが重要」というメッセージをもらった。働き方改革を進める気持ちを強くもつことができた。

## 「第2回 ICTコーディネーター養成研修」

6月16日・24日に、「情報モラル・セキュリティ」と「アクションプランの作成」をテーマに、第2回 ICTコーディネーター養成研修を実施しました。

現在、5月の研修後に各校で作成した推進ビジョンを提出いただいておりますが、右例の通り、多面的な現状分析に基づき、整理されていました。また、管理職の先生方からも的確な助言をいただき、感謝申し上げます。受講者には、その具現化に向けたアクションプランの作成を進めていただいております。実践を着実に進めるためにも重要な取組ですので、具体的な内容について、学校内で話題にする場面の設定等を、ぜひよろしくお願いいたします。



## <お知らせ>

### 夏の研修～セルフ・マネジメントで資質能力の向上～

5月、6月に研修管理システム「Leaf」を活用し、分析チャートを作成し、今年度の研修計画を作成していただきました。7月・8月及び夏休業期間も引き続き、資質・能力の向上を図る様々な研修を実施しています。また、「教員基礎研修」などの様々なeラーニングもあります。「Leaf」の検索機能等を活用して、ぜひご受講ください。



★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

# 教職員養成・育成だより 第62号

令和4年6月8日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課



## 5月の教職員育成課の教職員研修等及び事業情報

5月も、様々な研修等が集合、オンライン、ハイブリッド等様々な研修方法で行われました。教職員養成・育成だよりで、ぜひ全教職員に共有していただき、人材育成の推進等にご活用ください。

### 「教員基礎研修」は、すべての方にご利用いただけます

これまでに、「A 集合研修型 (Zoom 開催)」を2回行っています。受講者は少人数のグループを組み、その中に育成課スタッフが入り、演習を通して学び、実践につなげていきます。研修後の振り返りでは、「様々な校種や経験の方と話し合うことができてよかった」「話し合うことを通して理解が深まり、実践につなげる意欲が高まった」などの感想が寄せられています。

また、6月30日には、育児休業代替任期付教員、臨時的任用職員、非常勤講師の方を対象にした「学習評価」についての教員基礎研修を行います。 申込締切:6月22日(水)

お申込みは [YCANトップページ](#) > [各区局](#) > [教育委員会事務局](#) > [教職員育成課](#) > [教員基礎研修 Top](#)

児童生徒・保護者から  
がんばったのにどうしてこの成績なの？  
どうしたら(どこを改善したら)成績が上がるの？

↓

評価についての説明責任は、  
教科担任(小学校の場合は学級担任)

あなたは説明できますか？

### 教育実習について

受入れのご協力ありがとうございます。内諾方式の学生の申請は6月17日(金)締切です。

### 「初任者研修」がスタートしました

今年度は800名を超える初任者を対象に、初任者研修がスタートしました。「横浜型初任者育成研修」として、2・3年目の教員も含め「横浜市人材育成指標」に基づく研修を実施していきます。

初回の初任者研修での振り返りです。

- 事例検討を通して様々な校種の先生とお話できたため、考え方や視野を広げることができた
- これから始まる教師生活を充実したものにするために、学び続けていきたい
- 今回はオンラインでの研修だったが実際に同期と対面で研修が行えることを楽しみにしている



教職員育成課 Web ページには、初任者研修のガイドブック・指導資料があります。資料には、全職員が配慮することとして「初任者の心身の健康に配慮する。初任者との温かい人間関係を作る」とあります。各学校で初任者の成長を温かく見守りながら、校内での研修の円滑な実施をお願いいたします。

### 「前期・後期中堅教員研修」で中堅教員に求められる資質・能力の向上を図ります

「前期(6~10年)中堅教員研修」と「後期(11~15年)中堅教員研修」の第1回共通研修を花咲研修室で実施しました。講義やグループ協議を通して、各キャリアステージで求められる役割や目指す姿について考え、一年間の見通しをもちました。受講者の振り返りを紹介します。

- 自分にとって今できていること、不足していることを分析チャートの作成によって客観的に見つめることができた。
- 1年後の自分の理想像をもつことができたし、そうなるためにはどのようなステップを踏んでいくことが必要なのか、見通しをもつことができた。
- 久しぶりの集合研修で、同じくらいの経験をしている先生方と顔を合わせて話せたのが非常によかった。



今後は、校内でのアクションプランに基づく実践や、校外での選択研修・企業等研修派遣などを通して、年間を通して中堅教員に求められる資質・能力の向上を図っていきます。

### 「令和4年度 ICT コーディネーター養成研修」が開講しました

5月20日・27日に、第1回 ICT コーディネーター養成研修を実施しました。放送大学の中川一史教授にご講演いただき、一人一台端末によって、今後どのような ICT の活用が可能となっていくのか、協議等を行いました。

本研修は、研修で学ぶ理論と、学校での実践の往還を通して、ICT コーディネーターの養成と同時に、校内の ICT 活用を実際に推進していくことを目指します。受講者には、次の研修までに、自校の現状分析とビジョンの整理に取り組んでいただいております。受講者を中心に、今年度末に実現を目指す校内の ICT 活用の姿について、学校内で話題にする場面の設定をぜひお願いいたします。



【受講者の振り返りから】  
児童・教職員・組織の3つの視点から現状を分析していくと、それぞれに課題が見えてきました。また、どれも切り離して考えることのできないこともわかりました。まずは、組織として、いつ・だれが・どのように・何を目的に進めるか計画を見直すこと・立て直すことが大切だと感じました。

### <お知らせ> 研修管理システム「Leaf」の前年度総括(自己評価)の登録のお願い

今年度から、研修管理システム「Leaf」で作成した分析チャートを参考に、今までは「自己観察書」にあった「研修計画」の項目を Leaf 内で入力することになります。留意点として、今年度に限り研修計画の下での「③総括(自己評価)」を昨年度の自己評価を入力してください。既に入力済みの方も、割合で3人のうち2人は入力していない状況です。もう一度ご確認をお願いします。教職員向けの作成手順につきましては、教教育第105号をご覧ください。

今年度 自身の資質・能力は  
 向上した  やや向上した  あまり向上しなかった  向上しなかった

★「教職員養成・育成だより」は横浜市立学校向けに記載していますが、大学等におかれましても御一読いただけますと幸いです。

# 教職員養成・育成だより 第61号



令和4年4月11日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 「よこはま教育実践ボランティアの活用」がもたらすもの

よこはま教育実践ボランティアは、本市と大学等が連携・協働し、養成段階から教職生活全体を通じた学びを支援し、将来の横浜の教育を担う人材の育成を図ることを目的としています。学校が活動時期や活動内容を登録して web 公開したのから、学生が希望の活動を選ぶことができる仕組みです。すでに多くの学校に御活用いただいておりますが、今回は、多くのボランティアの学生が活躍している、平楽中学校の取組をお伝えします。

## 平楽中学校の取組から ～若杉栄一校長先生から～

平楽中学校では、令和元年度から「よこはま教育実践ボランティア」を効果的に活用しての取組を進めてきました。その結果として、①横浜市の教職員の人材育成、②教職員の業務負担軽減につながりました。令和4年2月現在、14名の学生が本ボランティアを希望し、学業を優先した中でそれぞれが活動可能な日程で来校し、ほぼ毎日活動が行なわれています。校長先生のお話をまとめてみました。



### きっかけ

校長である私自身の過去の取組を参考に、積極的に「よこはま教育実践ボランティア」の活動を取り入れました。過去の勤務校(老松中学校・末吉中学校)においては副校長として学校ボランティアの担当をする中で、①横浜市の教職員の人材育成、②教職員の業務軽減に大変有効であることを経験しており、本校の現状においても、まさにうってつけの取組であると思い、受入れを始めました。よこはま教育実践ボランティアをはじめ、アシスタント・ティーチャー、教師体験プログラム、インターンシップなども大変有効な活動であると感じており、実際に本校の現在の状況にも大変効果的な取組となっています。

### 本校の課題・困り感

個別支援学級(26人在籍4学級)では、集団に入ることができず、個別対応が必要な生徒に対し、教員の人数、人手が足りない状態です。生徒の安全面で危機管理上の不安が多く、よこはま教育実践ボランティアの学生に来校して参加・補助をお願いし、対応してきました。安心安全で命を守ることを最優先に、校長が毎日、朝と午前、午後に個別支援学級を訪れて状況を確認(危機管理)したり、非常勤講師やアシスタント・ティーチャーが支援員として、時間を見つけてトラブル回避のため見守りにあたったりしています。それでも、対応すべき課題は多く、人手不足は深刻です。



## 学生たちへの期待

個別支援学級での補助活動を通じて、ボランティアの学生たちの『教員としての資質・能力』が格段に向上しているのが感じられます。教育実習だけでは経験することができない、特別な支援が必要な生徒たちとの関わりとふれあいは、将来の教職員としての大きな財産になると確信しています。また、我々教職員がボランティアの学生たちから受ける新鮮な刺激も、『学び続ける教員』にとって貴重なものと言えます。

## 今後の課題

教職員側がしっかりと「将来の横浜の教育を担う人材の育成」として、これらの事業を捉え、理解、協力をしてもらえるように周知することも必要だと思われま



**中 平楽の丘だより**  
横浜市立平楽中学校 校長 若杉 栄一 [9月号①] No.57  
学校アドレス <http://www.edy.yokohama.jp/edu/Ps/ps.html>  
**活躍しています!**  
アシスタントティーチャー  
&よこはま教育実践ボランティア  
校長 若杉 栄一  
横浜市立の小学校では子どもたちの豊かな学びのために「アシスタントティーチャー」「よこはま教育実践ボランティア」と呼ばれる人材が活躍しています。将来教員を目指す大学生などが横浜市教育委員会を通じて、派遣を希望する学校でボランティアとして子どもたちの変化を促しています。平楽中学校でも2名の大学生が教員のアシスタントとして、授業や給食の準備に活躍しています。学生ボランティアによる子どもたちの安全で安心な学びのため!



学校だよりでも、学生によるボランティア活動の様子を紹介しました。

## 平楽中学校で活動した学生の言葉

- 生徒の集中力を持続させるために、先生方が小休憩をはさんだり、活動に見通しをもつことができる声かけをしたりといった工夫をしていることを体験的に学ぶことができました。
- 言葉での注意だけでは伝わらない子には、自分もペンをとって紙に書いて伝えるなど、個に応じた指導が必要だと学びました。
- 生徒に正しく伝えるように、指導案を工夫したり、一人で抱えこまず仲間と協力して計画を立てたりすることの大切さを知ることができました。



教育実習以外にもこうした体験の場をもつことで、児童生徒とのふれあいを通じた実践的な体験はもちろん、指導される先生方とのふれあいが、教員を目指す後進の育成につながるのですね!

## ★★★よこはま教育実践ボランティア情報★★★

「忙しすぎる教育現場」「働き方改革」「教員不足」「教員をめざす人材の減少」などの言葉をメディアで目にすることも多くなりました。それでも、よこはま教育実践ボランティアとしての活動を求めて登録する学生は、年々増えています。

4月11日からは、B 期(6月中旬～9月の活動)の登録が始まります。ぜひ、多くの学校に御活用いただきたいと思います。

詳しくは、システムガイドを御覧ください!!

